

肝移植における移植後グラフト Programmed cell Death 1- Ligand 1 (PD-L1) 発現の経時的変化とその臨床的意義に関する研究

1、 研究の目的と意義

本研究は、肝移植を行った患者さんにおいて、移植した肝臓に発現するPD-L1と呼ばれる蛋白が拒絶反応とどのように関係しているかを検討することを目的としています。そのことにより、PD-L1の発現程度に応じた免疫抑制剤の調整や拒絶反応に対する先行的治療がよりの確に行えるようになるものと思われま

2、 対象となる患者さんと協力いただく方

1997年1月1日から2022年7月31日までの間に当科において生体肝移植術を行った患者とそのドナー合計630名の方が対象でとなります。

また2022年10月1日から2022年10月31日に長崎大学病院で帝王切開を受けた胎盤に異常がない妊婦さん1名より通常廃棄予定の胎盤組織を提供いただき、病理ブロックを作成し、PD-L1による染色実験が正しく行えているかを確認するための試料に使用させていただきます。

3、 研究の方法

対象の患者さんの肝生検の標本、移植前肝生検標本、再灌流時生検標本、急性拒絶時生検標本、移植後定期生検時標本を免疫染色という特殊な染色法を用いてPD-L1が発現しているかを確認します。PD-L1がどの細胞に発現しているかを確認するために、免疫関連細胞の染色も行います。

4、 研究に用いる試料・情報

対象患者さんの①移植前肝生検標本、②再灌流時生検標本、③急性拒絶時生検標本、④移植後定期生検標本の4つのタイミングでの肝生検標本を使用します。

また対象患者さんの血液生化学検査や血中薬剤濃度などの検査結果を検討に使用します。

免疫染色が正しく行えているか確認する目的で妊婦さん1名より提供いただいたヒト胎盤組織を使用します。本研究において胎盤を提供いただいた妊婦さんの情報などは研究には使用いたしません。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、 研究期間

研究実施期間：研究機関の長の許可日～2025年12月31日
最終観察日：2023年12月31日

6、 外部への試料・情報の提供

該当なし

7、 研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 移植・消化器外科 研究責任者名：江口 晋

8、 お問い合わせ先

長崎大学病院 移植・消化器外科 松島 肇

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7316 FAX 095（819）7319

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）